入人　いりびと（にん）
増加した人。

勇五郎　ゆうごろう
人名。

御城下　ごじょうか
与良町　よらまち

忠吉方ゟ　ちゅうきちかたより

縁取申候　えんどりもうしそうろう
縁付いた。嫁いできた。

喜代蔵兄　きよぞうあに
喜代蔵の兄。

堀谷　ほりや（たに）
代官の名前。

文右衛門様　ぶんえもんさま
人名。

御代官所　おだいかんしょ

沓掛宿　くつかけじゅく
中山道の宿駅の一つ。現在の中軽井沢。

清蔵　せいぞう
人名。

権兵衛抱　ごんべいかかえ
権兵衛の抱えている奉公人。

甚吉子　じんきちこ
甚吉の子（男子）。

与四太郎　よしたろう
人名。

去十一月　さるじゅういちがつ
去年十一月、ここでは寛政八年十一月。西暦一七九六年。

出生　しゅっせい（しょう）

菊次郎　きくじろう
人名。

与吉娘　よきちむすめ
与吉の娘。

津し　つし
人名。津はつの変体仮名

要八　ようはち
人名。

亀三郎娘　かめさぶろうむすめ

藤之丞子　とう（ふじ）のじょうこ

宇吉　うきち
人名。

万五郎娘　まんごろうむすめ

〆三拾六人内　しめて三十六人うち
合計して三十六人になるその内訳。

出人　でにん（びと）
減少した人。

要左衛門　ようざえもん
人名。

御領内　ごりょうない
同じ領地内の。

大石村　おおいしむら
現在の長野県南佐久郡佐久穂町内。

吉左衛門方へ　きちざえもんかたへ

縁付　えんづき
嫁にいった。

遣し申候　つかわしもうしそうろう

長次郎娘　ちょうじろうむすめ

者那　はな
者那は「は」と「な」の変体仮名。

当村　とうそん

佐四郎方ゟ　さしろうかたより

不縁ニ而　ふえんにて
不縁になり。離婚して。

戻り　もどり

加増村　かぞう（かます）むら
現在の長野具小諸市内。

喜惣太　きそうた
人名。

虎蔵　とらぞう　人名。

去六月　さるろくがつ

病死　びょうし

佐四郎子　さしろうこ　人名。

千代松　ちよまつ　人名。「松」の偏と旁をたてに並べてある。

藤之丞　とう（ふじ）のじょう　人名。

去極月　さるごくげつ　去年の十二月。

増減人　ぞうげんにん　増加および減少した人数。

詮儀仕　せんぎつかまつり　しらべて。

書上　かきあげ　文書にする。

相違　そうい

無二御座一候　ござなくそうろう

御改以後　おあらためいご　宗旨あらための調査のあとで。

有レ之候ハ、　これありそうらわば

早速　さっそく

御注進　ごちゅうしん　申し述べる。

若隠置　もしかくしおき　もし隠しておいて。

顕候ハ、　あらわれそうらわば　発覚したならば。

如何様之　いかようの　どのような。

曲事ニも　くせごとにも　処罰にも。

可レ被二仰付一候　おおせつけらるべくそうろう　被と仰との間の空白は、表敬のための欠字。

百姓代　ひゃくしょうだい

（円）圓蔵　えんぞう　人名。百姓代。

組頭　くみがしら　村方三役の一つ。

友右衛門　ともえもん　人名。組頭。

同断　どうだん　右に同じ。ここでは組頭をさす。

善左衛門　ぜんざえもん　人名。組頭。

九兵衛　くへい　人名。組頭。

喜代蔵　きよぞう　人名。組頭。

勘左衛門　かんざえもん　人名。組頭。

宇源次　うげんじ　人名。組頭。

源八　げんぱち　人名。組頭。

彦左衛門　ひこざえもん　人名。組頭。

名主　なぬし　村の代表。→12頁

ひとくちメモ

五郎一　ごろいち　人名。名主。

稲垣貢殿　いながきみつぐどの

鎌柄嘉兵衛殿　かまえかへいどの

信州佐久郡八満村　しんしゅうさくぐんはちまんむら　現在の長野県小諸市内。